

ヨコレイ NOTE VOL.32

第77期中間報告書

2023年10月1日～2024年3月31日

- P1 ごあいさつ・財務ハイライト
- P1 What's ヨコレイ VOL.12
- P3 営業の概況・事業別の概況
- P4 中間連結財務諸表(要約)
- P5 会社情報
- P6 サステナビリティの取り組み

人とおいしさのあいだに

おいしさは、ココロを満たす
おいしさは、カラダをつくる
すべての人を幸せにするみなもと

食により添い、食を豊かにする
かかせない存在として、
私たちはこれからもずっと
そのおいしさを守り続けていきます

冷蔵倉庫と食品販売
ふたつの事業で日本へ、世界へ
人のために食をつなぐ使命を果たします

生産地から食卓まで、
食にかかわる人たちの
ほほえみもつないでいく

人とおいしさのあいだに
ヨコレイ

「人」に「もの」に「地球」に “やさしい” 食品流通のエキスパート

株主の皆さまにおかれましては、日ごろより格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第77期中間期（2023年10月1日～2024年3月31日）は、日経平均株価が平成バブル前の最高値を超えるなど、緩やかな持ち直しの傾向が見えたものの、物価上昇や、ゼロ金利解除、金融市場の変動等の下振れリスクが懸念されるなど、先行き不透明な経済環境となりました。

このような状況のなか、当社グループは、2026年を最終年度とする新・中期経営計画（第Ⅱ期）「繋ぐ力」を策定しました。冷蔵倉庫事業は「積み重ねてきた高品質な物流で国内外の課題を解消し、お客様へスマートコールドサービスを提供」、食品販売事業は「国内外の生産者とのネットワークを活かし、目利き力により旬や美味しさをお客様へ」を方針とし、各重点施策に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高62,025百万円（前期比2.0%減）、営業利益2,795百万円（前期比64.7%増）、経常利益2,371百万円（前期比19.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,644百万円（前期比38.2%増）となりました。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

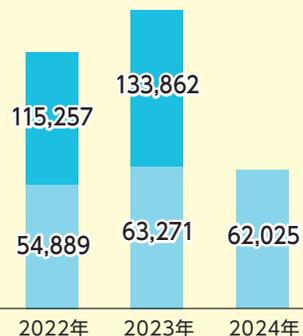
代表取締役社長 古瀬 健児



財務ハイライト

売上高 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



営業利益 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



経常利益 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益(百万円) /
1株当たり当期純利益(円)

■ 中間 ■ 通期 ● 1株当たり
当期純利益



恵庭スマート物流センター (2024年2月竣工)

当社の新たな施設として、恵庭市戸磯南工業団地内に「恵庭スマート物流センター」を竣工いたしました。

当センターは北海道ならではの設備としてCO₂換気+冬季外気導入システムを設置。また当社初採用となるメカニカルボイド、省エネ自然冷媒冷却設備、当社道内初の太陽光発電とリチウムイオン蓄電池の組み合わせによる「蓄電による冷蔵倉庫の冷却」で省エネ効果を一段と高めております。

省力化・省人化を図るカーゴナビゲーションシステムを設置するとともにソーラーパワーアイスパックシステムの発電利用とジェネレーターによる電力ストップ時のBCP対策の強化も行っております。



● 住所	北海道恵庭市戸磯2005番地3 (戸磯南工業団地内) 鉄筋コンクリート造3階建て (事務所棟5造2階建て)
● 構造・規模	敷地面積: 17,525㎡ (5,301坪) 延床面積: 24,087㎡ (7,286坪) 建築面積: 8,276㎡ (2,503坪)
● 収容能力	30,543t (F級: 24,999t C&F級: 4,383t C級: 1,160t) ・太陽光発電設備 (322.56kW) ・ メカニカルボイド初採用★
● 導入設備	・カーゴナビゲーション ・EV自動車充電ステーション ・ ソーラーパワーアイスパックシステム初採用★ ・自立機能式パワーコンディショナーシステム (太陽光発電設備) ・大容量リチウムイオン蓄電池 (346kWh) によるBCP対策 等



夢洲第二物流センター (2024年2月竣工)

当社の新たな施設として、大阪府大阪市此花区夢洲に「夢洲第二物流センター」を竣工いたしました。

当センターのコンセプトは「2024年物流ソリューション」です。新設では初となる当社独自のカーゴナビゲーションシステム、環境配慮型太陽光発電、リチウムイオン蓄電池、自立機能を持たせたパワーコンディショナーシステム、移動棚、トラック予約システム導入などで、省力化・省人化をはじめ省エネ設備、環境保全、BCP対策強化を図っております。

また、当センターは「恵庭スマート物流センター」と同様、ソーラーパワーアイスパックシステムを採用しております。



● 住所	大阪府大阪市此花区夢洲東1丁目2番12 鉄筋コンクリート造 4階建て
● 構造・規模	敷地面積: 17,098㎡ (5,172坪) 延床面積: 12,116㎡ (3,665坪) 建築面積: 3,266㎡ (988坪)
● 収容能力	15,221t (F級: 13,404t C&F級: 1,317t C級: 500t) ・太陽光発電設備 (255.0kW) ・カーゴナビゲーション ・EV自動車充電ステーション
● 導入設備	・ ソーラーパワーアイスパックシステム★ ・自立機能式パワーコンディショナーシステム (太陽光発電設備) ・リチウムイオン蓄電池 (173kWh) によるBCP対策 等

★ メカニカルボイド MECHANICAL VOID

当社初となる冷蔵倉庫のニューモデル。冗長性の確保、省エネルギー化、機器の長寿命化、保冷性能確保、BCP対策に有効。

★ ソーラーパワーアイスパックシステム SOLAR POWER ICE-PACK SYSTEM

建屋全体の電力負荷が太陽光発電設備能力を下回った場合に、太陽光発電で得た電力で冷凍機を強制的に運転させRC躯体と貨物の蓄冷を行うシステム。

営業の概況・事業別の概況

営業の概況

当中間期の概況

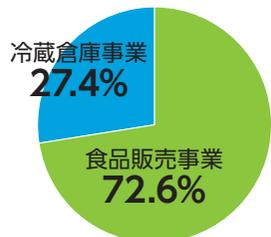
物価上昇や、ゼロ金利解除、金融市場変動等の下振れリスクの懸念など、経済環境は先行き不透明な状況で推移。

2026年を最終年度とする新・中期経営計画(第II期)「繋ぐ力」を策定。冷蔵倉庫事業は「積み重ねてきた高品質な物流で国内外の課題を解消し、お客様へスマートコールドサービスを提供」、食品販売事業は「国内外の生産者とのネットワークを活かし、目利き力により旬や美味しさをお客様へ」を方針とし、各重点施策に取り組む。

事業別売上高構成比

当中間期(2024年9月期)
売上高合計

62,025百万円



今期の見通しと業績予想について

冷蔵倉庫事業の上期は順調に推移し、計画を大幅に上回りましたが、下期は3つの新設物流センターの減価償却費負担が発生し、食品販売事業は円安に起因する輸入価格高騰による消費者の節約志向もあり、予断を許さない状況です。以上を踏まえて、通期の業績予想については、以下の通り予想します。

売上高	1,390	億円
営業利益	45	億円
経常利益	47	億円
親会社株主に帰属する当期純利益	30	億円
1株当たり当期純利益	51円88銭	

事業別の概況

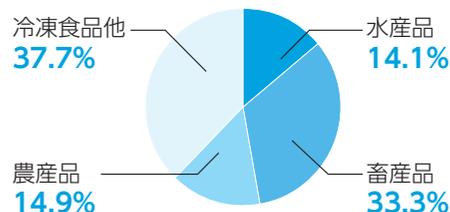
冷蔵倉庫事業

高い在庫水準が続き、畜産品が持ち直し、水産品、農産品の取扱いが増加、保管料収入、荷役料収入、運送取扱収入、通関取扱収入も増加。コスト上昇分の料金改定も進み、増収増益。

タイの連結子会社THAI YOKOREI CO.,LTD.においても、主力取扱品である畜産品、乳製品の取扱量が増加し、増収増益。

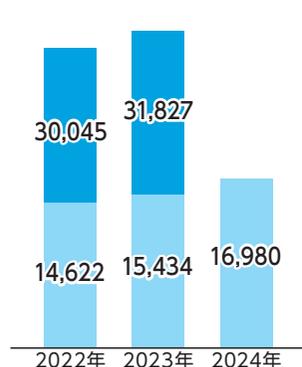
当事業の業績は、売上高16,980百万円(前期比10.0%増)、営業利益3,969百万円(前期比22.0%増)の増収増益。

当中間期在庫量品目別割合



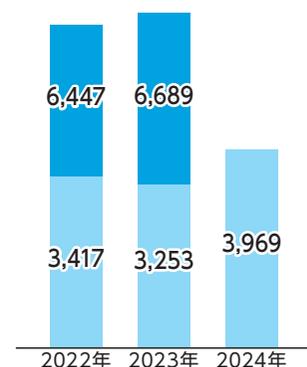
売上高

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



営業利益

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



食品販売事業

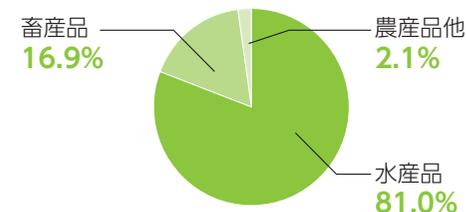
水産品は主力の鮭鱒は減収ながら、マグロ、イワシは取扱数量も増え増収増益、餌料用イワシ、サバも取扱が増加。前期相場下落で利益率を落としたエビも相場が回復し、水産品全体では利益重視の販売の取り組みにより減収増益。

畜産品はポーク、チキンともにインバウンドによる外食需要の増加により取扱が増え、増収増益。

農産品は昨年夏の高温による異常気象のため収穫量の減少により減収減益。

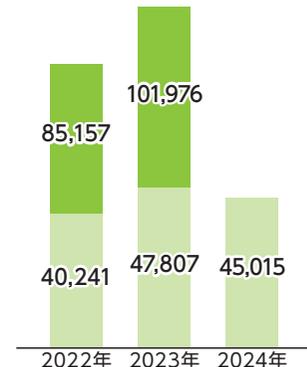
当事業の業績は、売上高45,015百万円(前期比5.8%減)、営業利益798百万円(前期比69.8%増)と減収増益。

当中間期品目別売上高構成比



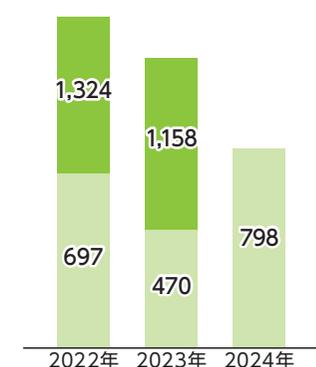
売上高

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



営業利益

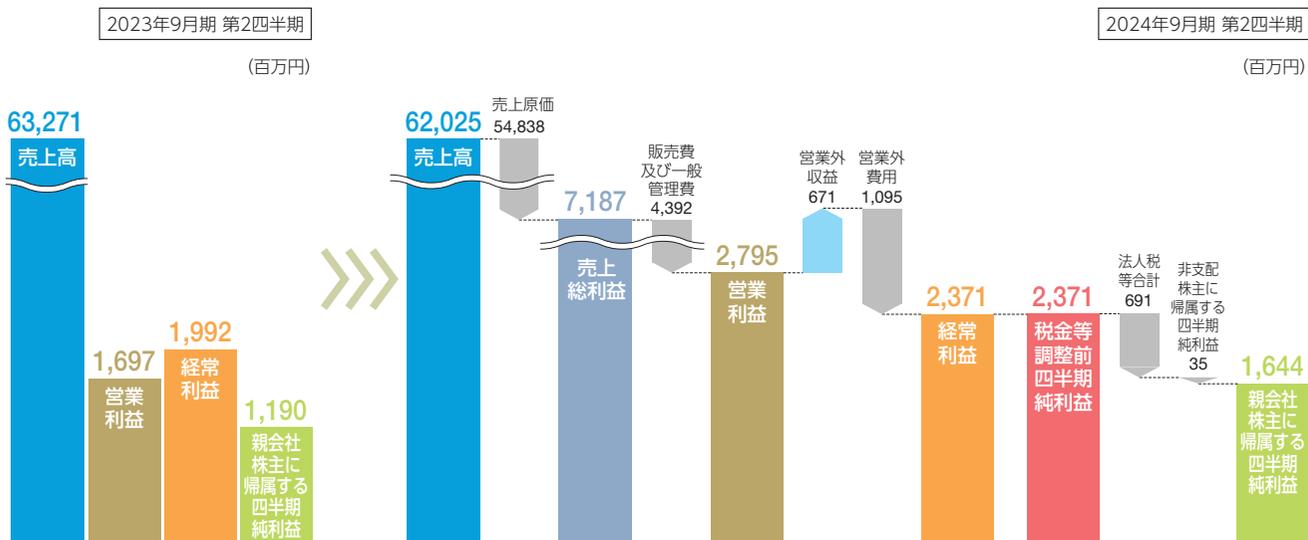
■ 中間 ■ 通期 (百万円)



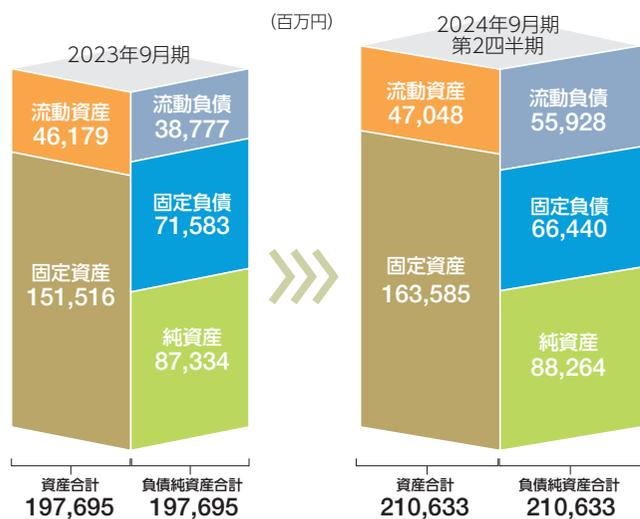
中間連結財務諸表(要約)

中間連結財務状況

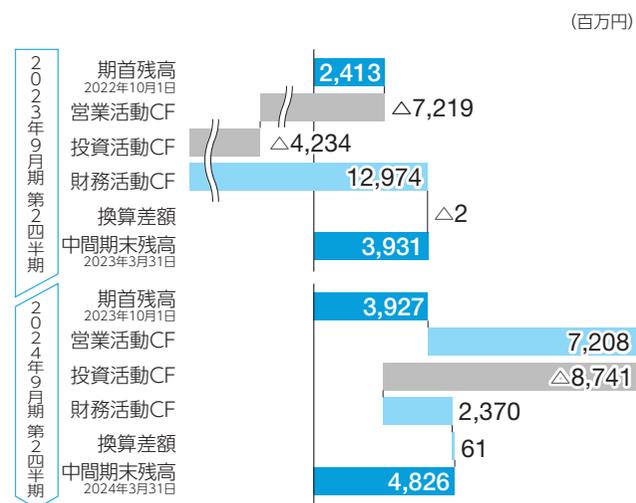
◆ 損益の状況



◆ 資産・負債・純資産の状況



◆ キャッシュ・フローの状況

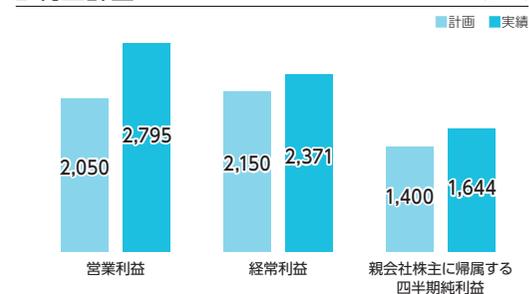


もっとくわしく!

POINT 1 利益計画は予定通り達成

新・中期経営計画(第Ⅱ期)初年度となる当第2四半期は、当初の目標を上回る結果となりました。この結果は、冷蔵倉庫事業の営業利益が当初の予想を大きく上回った実績によるものです。

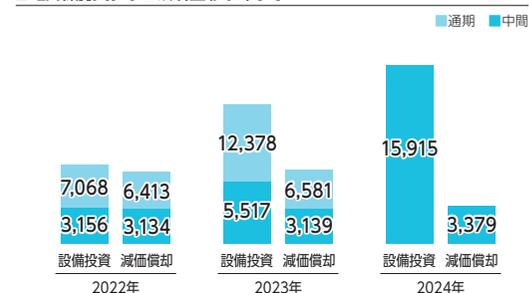
利益計画



POINT 2 設備投資と減価償却費

恵庭スマート物流センターおよび夢洲第二物流センターの竣工により、有形固定資産は前期末に比べ123億円増加しました。引き続き環境に配慮した設備や省人化・省力化を進めるため、継続的な設備投資を行います。

設備投資と減価償却費



会社情報 (2024年3月31日現在)

会社概要

会社名 横浜冷凍株式会社
本社所在地 〒220-0012
横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号
横浜コネクトスクエア10階
TEL: 045-210-0011 (代表)
FAX: 045-210-0018

設立 1948年5月13日
資本金 14,303,426,625円
従業員数 連結 1,645名 単独 1,312名

事業内容

1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
4. 通関業
5. 養殖業
6. 製氷業
7. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
8. 不動産賃貸業
9. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
10. その他前各号に付帯関連する一切の事業

役員および執行役員

取締役会長	吉川 俊雄	執行役員	岩倉 正人
代表取締役社長	古瀬 健児	執行役員	織田 政和
常務取締役	越智 孝次	執行役員	中尾 成人
常務取締役	吉川 尚孝	執行役員	星 光孝
取締役	岡田 洋	執行役員	小松 晃子
取締役	池田 浩人	執行役員	伊豆 肇
取締役	星野 義明	執行役員	関 晋也
取締役	吉田 郷	執行役員	川原 法男
取締役(社外)	酒井 基次	執行役員	寺井 利行
取締役(社外)	堀合 洋祐	執行役員	榎 貴範
取締役(社外)	本田 光宏	執行役員	石田 和仁
取締役(社外)	坂本 順子	執行役員	北池 信夫
常勤監査役(社外)	井上 啓造	執行役員	松井 美枝子
常勤監査役(社外)	林 修三	執行役員	栗山 知浩
監査役(社外)	棚橋 栄蔵	執行役員	阿部 広康
監査役(社外)	宗像 久男		

ネットワーク (2024年4月1日現在)

冷蔵倉庫事業 52拠点

北海道・東北ブロック
十勝物流センター
十勝第二物流センター
十勝第三物流センター
石狩物流センター
石狩第二物流センター
恵庭スマート物流センター
喜茂別物流センター
八戸物流センター
気仙沼ソーティングスポットⅠ
気仙沼ソーティングスポットⅡ
仙台物流センター
圏央ブロック
加須物流センター
加須第二物流センター
幸手物流センター
鶴ヶ島物流センター
伊勢原物流センター
つくば物流センター
ちばりサーチパーク物流センター
京浜ブロック
東京羽田物流センター
東京物流センター
東京第二物流センター
大黒物流センター
横浜物流センター
横浜みらいサテライト
山内物流センター
中京・東海ブロック
沼津物流センター
大井川物流センター
名港物流センター
小牧物流センター
名古屋物流センター
中川物流センター
阪神ブロック
夢洲物流センター
夢洲第二物流センター
北港物流センター
舞洲物流センター
西淀物流センター
六甲物流センター
九州ブロック
福岡ISLAND CITY物流センター
福岡物流センター
六甲物流センター
鳥栖物流センター
鳥栖第二物流センター
唐津ソーティングスポット
長崎物流センター
長崎ソーティングスポット
佐世保ソーティングスポット
都城物流センター

都城第二物流センター
志布志物流センター
鹿児島物流センター
川辺物流センター
枕崎ソーティングスポット
山川物流センター

食品販売事業 22拠点

畜産営業部
畜産名古屋営業部
海外営業1部
海外営業2部
海外営業3部
東京営業所
名古屋営業所
大阪営業所
札幌営業所
十勝営業所
沼津営業所
気仙沼営業所
仙台営業所
銚子営業所
茨城営業所
八戸営業所
福岡営業所
唐津営業所
佐世保営業所
長崎営業所
枕崎営業所
販売推進事業部

通関事業 6拠点

東京通関部
横浜通関部
名古屋通関部
大阪通関部
神戸通関部
九州通関部

連結子会社

THAI YOKOREI CO.,LTD. (タイ)
ワンノイ物流センター
ワンノイ物流センター2号棟
バンパコン物流センター
バンパコン第2物流センター
サムロン物流センター
BEST COLD CHAIN CO.,LTD. (タイ)
VIETNAM YOKOREI CO.,LTD.(ベトナム)

株式の状況

発行可能株式総数 160,000,000株
発行済株式の総数 59,266,684株
株主数 14,233名

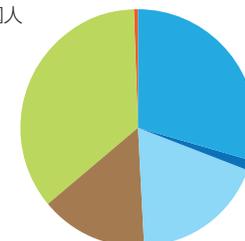
大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,982	11.81
株式会社松岡	2,569	4.34
第一生命保険株式会社	2,205	3.73
株式会社横浜銀行	2,176	3.68
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,687	2.85
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	1,524	2.57
農林中央金庫	1,473	2.49
株式会社八丁幸	1,411	2.38
横浜冷凍従業員持株会	1,319	2.23
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,092	1.84

(注) 持株比率は自己株式(170,654株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

■ 金融機関	17,514千株	29.5%
■ 金融商品取引業者	899千株	1.5%
■ その他の国内法人	10,879千株	18.4%
■ 外国法人・外国人	8,568千株	14.5%
■ 個人・その他	21,234千株	35.8%
■ 自己名義	170千株	0.3%



サステナビリティの取り組み

環境への取り組み

指標と目標

当社は、気候関連のリスクを軽減・適応するため、また気候関連の機会を最大化するため、以下の目標を設定しました。

	目標	指標
目標1	2030年、GHG排出量削減40% (2015年比) *1	冷蔵倉庫事業部門の収容能力当たりのGHG排出量
目標2	2030年、自然冷媒導入率85%以上 (2023年現在約69%) *2	冷蔵倉庫事業部門の自然冷媒導入倉庫収容能力
目標3	2030年、太陽光発電設備発電能力20メガワット (2023年現在約9.3メガワット)	冷蔵倉庫事業部門の太陽光発電設備発電能力

目標1～3はいずれも、環境負荷割合の高い冷蔵倉庫事業(冷蔵倉庫事業におけるGHG排出量は当社全体のGHG排出量の99%を占める)をベースに目標値を設定しております。*1 現在の実績でGHG排出量の削減が進むと、2015年度比の2030年度のGHG排出量は、目標の40%削減に対して47%削減となる見込みです。*2 目標2において自然冷媒導入率を80%以上から85%以上に変更しました。

環境データ

カテゴリ	指標	2023	2022	2021	範囲	備考
気候変動	Scope1	542	533	479	横浜冷凍	
	冷蔵倉庫事業部門	445	438	402		
	食品販売事業部門	79	79	60		
	管理部門	17	17	17		
	Scope2	56,491	57,104	58,696		
	冷蔵倉庫事業部門	55,878	56,477	58,373		
	食品販売事業部門	523	480	184		
	管理部門	90	147	139		
	Scope3	581,704	485,881	-		
	購入した製品・サービス	522,684	446,545	-		
	資本財	31,519	12,475	-		
	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	9,874	9,823	-		
	輸送、配送(上流)	16,602	16,020	-		
	事業から出る廃棄物	327	313	-		
	出張	184	184	-		
	雇用者の通勤	504	503	-		
	リース資産(上流)	-	-	-		対象外
	輸送、配送(下流)	-	-	-		対象外
	販売した製品の加工	-	-	-		対象外
	販売した製品の使用	-	-	-		対象外
	販売した製品の廃棄	11	18	-		
	リース資産(下流)	-	-	-		対象外
	フランチャイズ	-	-	-		対象外
投資	-	-	-	対象外		
Scope1+2	57,032	57,637	59,175			
冷蔵倉庫事業部門	56,324	56,915	58,775			
食品販売事業部門	602	559	244			
管理部門	107	164	156			
Scope1+2+3	638,737	543,518	-			

*2022年度よりScope3の排出量を算定しています。

地域社会への貢献

伝統文化の継承と育成への貢献

公益社団法人 日本将棋連盟の将棋を指針として礼節を尊び心身の向上を目指し伝統文化の保護や将棋を通じて礼節と作法を学しての将棋の普及発展に賛同し毎年支援を行っております。

2024年9月に100周年を迎える日本将棋連盟の東西会館建設への支援も行いました。

また次代の藤井聡太氏を輩出するために日本将棋連盟および少年少女育成の北海道研修会・東北研修会に支援も継続しており、その一環として全国の研修会で年1回「関口慎吾杯研修会トーナメント」(ヨコレイ杯)を実施。トーナメントの様子は「将棋世界」や日本将棋連盟のHPにて掲載されております。



昨年末の日本将棋連盟 羽生会長就任挨拶時写真(当社本社応接室)

AEO制度における「認定通関業者」認定を取得

2023年10月27日付で、東京税関よりAEO制度に基づく「認定通関業者」としての認定を取得しました。



AEO認定通関業者認定証

国際物流に携わる企業として貿易の円滑化を図るとともに、食の安全・安心の確保に努め高品質なスマートコールドサービスを提供してまいります。

名古屋通関部開設のお知らせ

2024年4月1日より、業務の更なる拡大と顧客ニーズに対応するため、名古屋地区に通関部を開設する運びとなりました。

開設日	2024年4月1日
名称	横浜冷凍株式会社名古屋通関部
所在地	名古屋市港区築地町8番(名港物流センター内)
TEL	(052) 651-5057
FAX	(052) 651-5058

株主還元方針

■ 配当方針

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の実施を重要な経営課題の1つとして認識し、企業価値向上に必要な設備・IT投資等を勘案しつつ、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としています。

1株当たり年間配当金
24円 (中間配当金)
予定 (12円)

■ 株主優待

株主の皆さまからの日頃のご支援に対する感謝と、ヨコレイグループの事業内容へのご理解をより一層深めていただきたいとの思いから、年1回、以下の基準にて、ヨコレイグループ取扱商品を使用した株主優待を実施しています。

ご優待内容*および対象となる株主様

① 3,000株以上かつ1年以上
保有の株主さま*2

「北海道産のホタテ・いくらセット」



●実施時期
11月
下旬頃～

② 1,000株以上～3,000株未満かつ1年以上
保有の株主さま*2

「ノルウェー産サーモントラウト製品詰合せ」



*1 ご優待内容は2023年9月期の実績です。内容・パッケージ等が変更になる場合がありますので、ご了承ください。

*2 9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された当該株数保有の株主様のうち、1年以上同じ番号で継続して当社株式を保有されている株主様が対象となります。

株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日 剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告 ※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 https://www.yokorei.co.jp/investors/publication/index.html
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所(プライム)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

▶ <https://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかる財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツをご用意しております。また、環境への取り組みや社会貢献活動、コーポレートガバナンスなど、ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みに関する情報も掲載しております。

ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

